

グローバル時代における「SLAM DUNK」聖地巡 礼の生起要因

— 中国人留学生たちへのインタビュー調査 —

近年、アニメやゲーム、ドラマの舞台となった場所を訪れる行為が話題になっていた。こうした行為は、「聖地巡礼」（コンテンツツーリズム）と呼ばれていた。聖地巡礼は新しいタイプの観光資源として、大きな市場が期待した。

そして、インターネットの発展やスマートフォンの普及とともに、日本だけではなく、中国からの巡礼者も多くなった。その中で、アニメ『SLAM DUNK』の聖地である鎌倉市への観光も、中国人観光客によるコンテンツツーリズムになくてはならないものとなっていた。

では、どうしてアニメ『SLAM DUNK』の聖地巡礼は人気になるのか？本研究では、『SLAM DUNK』という代表的な作品を研究対象とし、先行研究の調査と中国人留学生たちへのインタビューを中心に『SLAM DUNK』が活発化している原因を明らかにした。

インタビューを加えて、筆者は2022年9月2日の時、実際に『SLAM DUNK』の聖地の中で一番人気の高い場所—「鎌倉高校前駅」に行き、アニメ聖地の実際の様子を調査した。

その結果として、インタビューの相手がアニメ聖地に行く理由はそれぞれだが、その共通の動機は「自分の青春を回顧する」ことであった。作品が聖地巡礼に強い影響力を持っていることがわかった。

そして、周辺の観光地の有無も影響要素となっていた。鎌倉高校駅はちょうど江ノ島駅と鎌倉駅の間に位置しており、一般観光ルート「江ノ島～鎌倉」では通過しなければならないポイントもあった。従って、アニメ聖地の周辺の観光地の存在などによって、『SLAM DUNK』の聖地巡礼が人気になっていた。

本研究の調査は、『SLAM DUNK』の聖地巡礼という一つの事例に絞られて、調査対象は留学生であって、調査対象の範囲と年齢は限定されている、中国人以外の対象に行われないため、国際的な普遍性が備えるとは言えなかった、調査結果の偏りがあることは否定できなかった。

2010年以降、日本は「クールジャパン」と「観光立国」戦略に力を入れて、海外からの観光客を誘致して日本経済の成長を狙っていた。この戦略により、日本で発展したアニメツーリズムは、今や中国にも深く浸透されている、膨大な数のファン層を形成した。このファンたちにとって、江ノ島電鉄の「鎌倉高校前駅」への訪問は長い間日本の観光の定番となっていた。

今のアフターコロナ時代において、アニメツーリズムは再び中国人観光客を日本に呼び込むことができるのか。短期的な観光需要の回復だけでなく、持続可能な観光振興の取り組みを着実に進めていくことが大事なことであった。

日本と中国の国際交流は中日関係を強化するために、アニメ聖地巡礼は、両国関係の円滑な発展にとって大きな促進力となることは間違いなかった。同じアニメ作品に共感する人々が国境を越えて集まって、新たな文化を生み出すことは、アニメ聖地巡礼のより大きな意義であった。